

# アクティブ・ラーニングを促す要素の分類



アクティブ・ラーニングで大切にしたい学び

- 問題発見・解決を念頭にいた「深い学び」
  - ・教員が教える場面と子供たちに思考・判断・表現させる場面とを関連させながら指導する。
- 自らの考えを広げ深める、「対話的な学び」
  - ・教師と子供、子供同士の対話によって、思考を広げ、深めていくことが求められている
- 自らの学習活動を振り返って、次につなげる、「主体的な学び」
  - ・子供が興味をもって、積極的に取り組み、学習活動を振り返って、意味付けたり、知識・技能の獲得や資質・能力の育成を自覚したりすることが重要となる。
  - ・実生活に関係するテーマの学習、体験学習の充実が必要となる。

気をつけたいこと

- 必要な知識・技能はしっかりと教授しながら、それに加えて子供たちの発言を促すなど、学びに必要な指導や環境を積極的に設定していくことが必要である。
- 子供の活動を単に見守り、支援に徹することではない。
- 特定の型を普及させることではない。
- 資質・能力を育むためには、学びの量だけではなく、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりが重要である。

※本分類については、戸田市立美谷本小の研究を基に戸田市教育委員会が作成したものです。指導案等に本分類を示すことにより、授業におけるアクティブ・ラーニングを促す要素の位置付けが明確になるとともに、授業を行う教員やその授業を見る教員等のアクティブ・ラーニングへの意識を高めるためのものとして御活用ください。

## A



アクティブ・ラーニングを促す

### 学習環境

- a 外部人材の活用  
(ゲストティーチャー・ボランティア・地域の人材)
- b 実物の活用  
(実物を見る、聞く、触れる)
- c 地域等学習活動場所の活用
- d ICTの活用
- e その他の学習環境

## B

アクティブ・ラーニングを促す

### 授業展開

- a 問題（課題）解決的な学習
- b 体験学習
- c 調べ学習
- d 協調学習  
(知識構成型ジグソー法等)
- e その他の展開



## C

アクティブ・ラーニングを促す

### 指導上の工夫 言語活動の充実

- a 話し合い活動（ペア・グループ）
- b 説明・発表活動
- c ふり返り活動
- d ロールプレイ活動
- e 実験
- f 体験・操作活動
- g 調べ活動
- h まとめ活動
- i その他の活動



指導案に明記例

A L B d 協調学習

○ ……教育効果の高い取組